

五、寄稿

上地八景



4 円光山寂静寺

1,400年の昔、当地を巡行した聖徳太子が阿弥陀如来像を安置されたのが契機となって建立された。境内は車社会から隔絶された古都の雰囲気を持たせ、石段と山門を通して見えてくる風格ある本堂は心をなごませる。

一、確かな手ごたえ

△寄稿 安田 光子▽

△第一回上地学区親子夏祭り▽

八月二十四日午後二時、準備のために登校した私の目に、最初に飛び込んできたのは、運動場の真ん中で紅白の幕に包まれた大きなやぐらでした。PTA会長の鈴木さんに伺うと、総代さん方が朝六時半から組み立てて下さったのと、曇り空を吹き飛ばす意気ごみを感じ、思わずやぐらに頭を下げました。

おいしそうな油香（あぶらか）につられて調理室を覗くと、約二十名ほどの保体部の委員さんたちが汗だくで四百人のフライドポテトとチキンバーを揚げてみえました。蒸し風呂のような部屋の中、テキパキと和気あいあい次々とできてくるチキンとポテトの山を片づけている姿はとてもまぶしく、上地のお母さん方の底力を見る思いがしました。

五時五十分、赤と白のユニフォーム姿の鼓笛部とバトン部が校庭に整列すると、ピーンと張りつめた空気が準備の整ったゲームコーナーや食品バザーのテントを包み、思わずぶるっと身震いしました。そして、この夏祭りは多くの人の協力なしには決してできない、大変な催しであることを肌で感じました。

それから約二時間、一息つく暇もないくらい忙しさの中、フランクフルト、みたらしだんご、焼きとうもろこしなど八種類、約三千食以上の食品バザーはすべて完売。五つあるゲームコーナーはどこも六百個ずつ用意した景品が終了時間の三十分前にはなくなるといふ大盛況ぶりでした。

約四か月前、「手づくりの夏祭り」をスローガンに発足した、PTA役員と各部の部長五名による『夏祭り特別委員会』、基本的には昨年同様の規模で、不足気味だった食品バザーは少し拡大して実施することになりました。それにもない二十五名の夏祭り特別委員の方にお手伝いをお願いしました。仕事や自分の時間をさいて集まって下さる委員さん方もみんなを束ねる部長さん、副部长さんも、十円玉を握りしめて行列を作る小さいお客さんに少しでも喜んでもらうと、話し合いをかさね、一生懸命準備をしてみました。二回目の委員会では、子供達の参加の場を設けることが決まり、鼓笛部、バトン部、野外レク部が候補に挙がりました。さらに特大のポスター制作には、絵の好きな子供達が得意の腕を振るってくれました。

七月に入ると、総代会が『金魚すくい』、若松屋さんがフィナーレとして『仕掛花火』を提供して下さることになり祭りムードは一気に盛り上がりました。

夏祭りを何とか成功させようという総代さんはじめ、先生方、役員さん、委員さん方の熱意と、上地を第二のふるさととして育んでいこうとする学区の皆様の気持ち、第二回上地学区親子夏祭りを成功させる大きな力になったののだと思います。

やぐらの上で盆踊りのリードをして下さった、先のPTA役員さん。若松屋さん、あれほど身近で初めて見た仕掛花火の美しさに、大人も子供も思わず歓声を上げました。参加いただいたご父兄のみなさん、みんなの安全を確保して下さった交通指導員さん、本当にありがとうございました。

最後に、上地っ子の諸君。今回の立役者はやっぱりキミ達です。表で頑張ってくれた子、陰で支えてくれた子、みんな有り難う。来年も頑張っって、上地っ子のパワーを見せて下さい。

一、ソニー幸田見学会に参加して

宝珠山みよ子

去る十一月二十一日、テレビコマーシャルで馴染み深い八ミリビデオを作っているソニー幸田工場の見学会に参加させて頂きました。工場の概要について説明を受け、胸に静電気防止用リストバンド、耳にレシーバー（無線で説明が聞けるイヤホン）をつけて工場内に入りました。

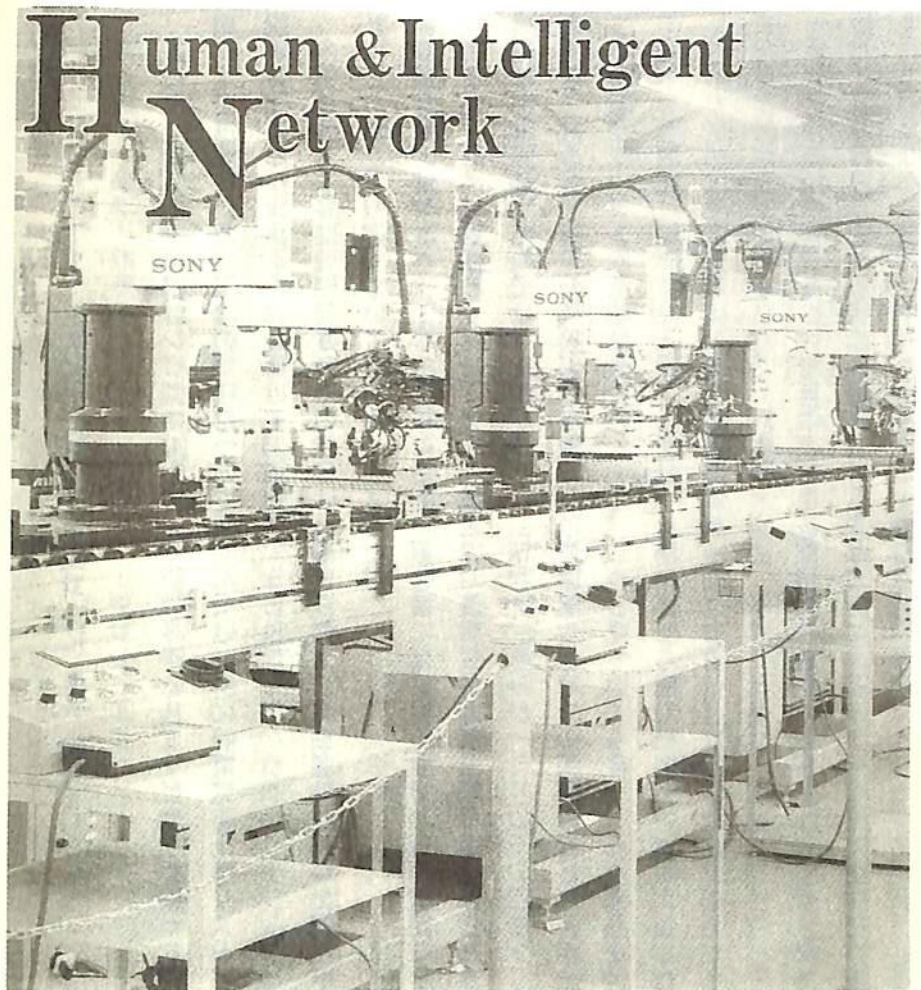
内部はきちんと整理整頓されていて匂いもあまりなく、音も意外と静かで、私が思っていた生産工場のイメージとは、あまりにも違ってびっくりしました。

製造ラインはコンベアーが一直線に走り、その横にはソニーロボットが隙間なく並び、休みなく精密作業をしていました。ライン監視のオペレーターは数人で、最新鋭の大量生産工場とはこんなものかと感心しました。

電子部品実装ラインでは、面積がタバコ二箱程で、厚みが一ミリ以下の四層プリント基板にクリーム状のハンダを塗り、大小合わせ一千個の部品を取り付けていました。その部品のほとんどが米粒位の大きさのものです。

その工程は、三々四工程に分かれていて、じっと見ても今、どんな部品を付けているのか分からず、出て来てからその変化に驚いて見入ってしまい、気がついたら周りに誰もいませんでした。ロボット・近代化技術を駆使していますが、やはり最終のビデオ組立てラインになると、人手にたよる部分が多くなると女性の女性が働いている姿を見て何かほっとしました。

重要部分の精密作業はすべてロボット化した結果、製品の良品率は向上し、今では九十八パーセントとのことでした。私の今使っている手の平サイズの八ミリビデオ（TR705）の中に、あんなにもたくさん部品の部品が組込まれていたなんて驚きです。これもソニーの魔匠は仏なのでしょうか？



↑メカデッキ製造ライン

→ビデオ総合組立てライン

三、耳鼻科の疾患と子供の病気①

石田 正人先生

十月二十三日に行われた、耳鼻科講話会の内容を簡単にまとめ、連載でお知らせします。

今日は、まず鼻の話、それから、アレルギーとはどんなものか、アレルギーと耳の関係、最後にアレルギー性鼻炎に対する対策について話を進めていきます。

まず、話を始める前に、直径一メートルの円を想像してみてください。今日の話は、その中の一ミリメートルの点を直径一メートルの円に拡大したその中の一ミリメートルの点、つまり一ミクロンの世界の話であることを頭の中に入れて聞いてください。

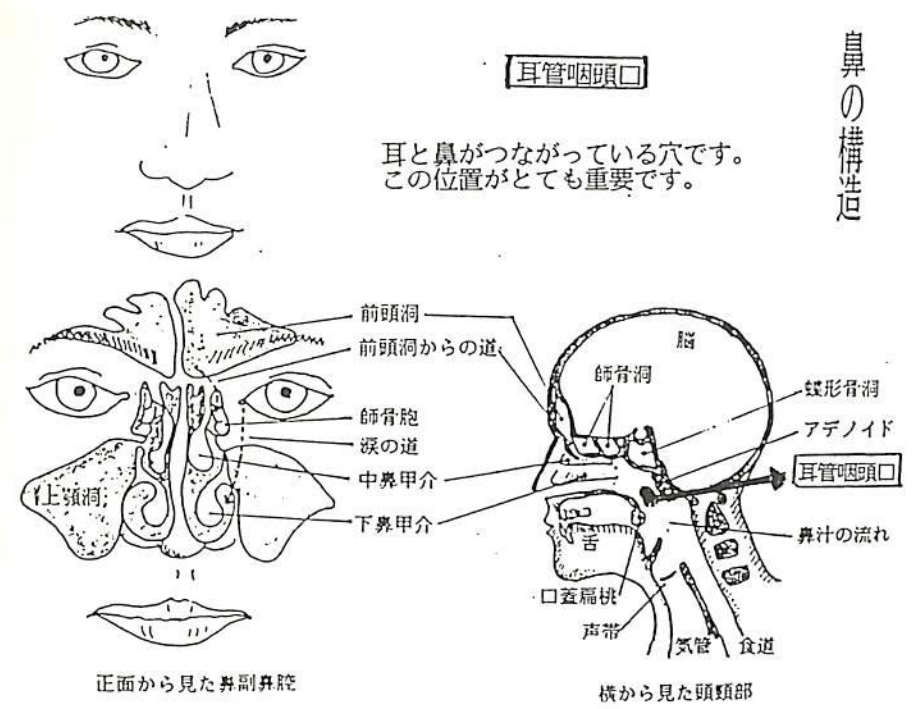
*顔のほとんどは、鼻なんです。

鼻はどこと聞けば、ほとんどの人は顔の真ん中にある目に見える部分の鼻を想像するでしょう。ところが、一皮めくってみれば、次の図のように、顔のほとんどは鼻なのです。そして、骨に囲まれたいくつもの空間が狭い通路でつながっています。この通路で特に覚えておいてほしいのは、耳管咽頭口といって鼻と耳がつながっている穴です。この位置は必ず覚えておいてください。さらに、鼻は、眼、口、のど、耳、さらに脳などの一番大切な部分と、隣り合わせになっているんです。鼻が悪いといういろいろな部分に影響が出ます。

鼻の構造

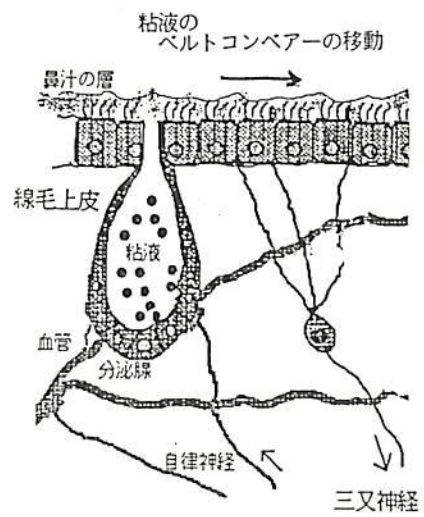
耳管咽頭口

耳と鼻がつながっている穴です。この位置がとても重要です。



鼻の粘膜

鼻の粘膜は、線毛上皮という毛の生えた細胞が並んでいて、その線毛が分泌された粘液と鼻汁を後ろ後ろへ送っていきます。



線毛上皮の下には分泌腺があり、血管や神経が張りめぐらされ、自律神経で調整されています。

* 鼻はこんな働きをしているんです。

吸った空気を湿らせる

鼻から入った空気は、鼻腔と上咽頭で約八〇%に加湿され、肺に達するまでに一〇〇%の吸気になります。鼻粘膜から分泌される鼻汁は、普通の状態でも一日一リットルくらい分泌され、このうち〇、七リットルは吸気に湿度を与えるのに用いられます。空気をきれいにしながら後方へ送られた鼻汁は胃へ入り、また吸収され分泌されます。

吸った空気をあたためる

気温が二五度で鼻咽腔では約三七度、〇度でも約一六度に、さらに気管を通じていくと体温と同じ位になります。そして、呼吸からエネルギーを回収するというハイメカニズムも持っています。

細菌やウイルスの感染を防ぐ

外から入ってきた敵(細菌)に対してリゾチーム、IgA インターフェロンというような番兵が働いて感染防御作用してくれます。ところが、鼻水が出るとこれらの番兵が、働きにくくなってしまいます。そのうえ、鼻水に含まれる成分が鼻の粘膜を障害します。

ホコリなどをベルトコンベアーで後ろへ送る

後ろのほうに向かう鼻汁のベルトコンベアーは、鼻の中に、ホコリ、ウイルス、細菌などが付着するのを防ぎ、病気になるないようにしています。鼻が悪いとこれが働かなくなり、熱を出したり膿がたまったりします。そして、大切なことは、その通路の途中に耳の入り口になる穴があるということです。そこを一番汚いものが行ったりきたりしているのです。そのため鼻が悪いと耳も悪くなりやすくなります。

* 乾燥したり、病原菌やウイルスなどを含んだ空気を吸い込むと、肺炎など重い疾患にかかってしまいます。鼻は、そうならないように、一生懸命働いているのです。
つづく (次号はアレルギーについてです。)

四、耳鼻科の疾患と子供の病氣②

石田 正人先生

* アレルギー性鼻炎の特徴

- 1 遺伝性があり、年齢とともに増える。
アレルギー性鼻炎の特徴は、まず遺伝性があるということです。ですから、アレルギー体質を変えることはできません。どちらかという母親の方の遺伝が強いようです。次に喘息や、アトピー性皮膚炎は年齢がすすむに従って、だんだん減少してきます。ところが、アレルギー性鼻炎は年齢とともにどんどん増えてきています。アレルギー性鼻炎・アトピー性皮膚炎・喘息は一型アレルギーといって、同じ種類のアレルギーに属します。互いに合併したり、移行したりもします。
- 2 アレルギーのものは？
抗原（アレルゲンと言います）は、家のほこり（ハウスダスト）が多く、花粉によるアレルギー（花粉症）もどんどん増えていきます。抗原は、ある人に対して一つとは限りません。杉の花粉とハウスダストというように複数のこともあります。
- 3 地域的にどこに多いか？
最も多いのが、新興住宅地、上地はこれにあたります。海岸沿いや一般住宅地に比べると多く、住民の約三十%がアレルギー性鼻炎を持っているという報告もあります。住民の三十%が罹っている病氣なんて他にはありません。また、高層住宅では、上部の方では、四〇%近い所もあると言われています。風当たりが強く、窓が開けられないことと、外に出難いためです。

4 何歳くらいで発症するのか？

九才以下で発症するのは、家のほこりです。生後もない子でも発症し、多くの場合、中耳炎を併発します。花粉症は、三代に発症するのが一番多いんです。どうしてかというところ、家のほこりは生まれた時からずっと接していますが、花粉は年一回しか接しません。だから、年数がたつと発症します。

5 アレルギー性鼻炎の症状は？

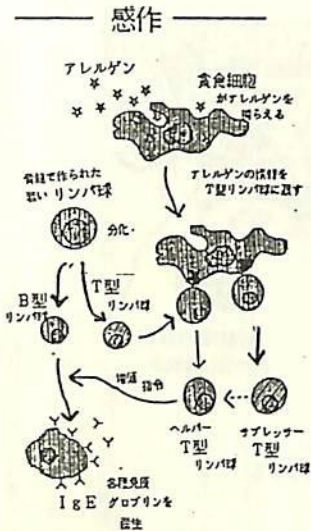
アレルギー性鼻炎の症状はくしゃみ、鼻水、鼻づまりだけかということ、とんでもない話なんです。本当はものすごい病氣なんです。鼻血、膿性の鼻汁、せき、声がれもおきます。鼻だけでなく、喉の症状もひどいです。そうすると、免疫能力が落ちますから、発熱を繰り返したり、中耳炎を繰り返したりします。喉がひりひりして、頭が痛くなり、さらには、胃腸障害とか、全身倦怠感、情緒不安定まで現れてきます。こんなに大変な病氣なんです。

* アレルギー

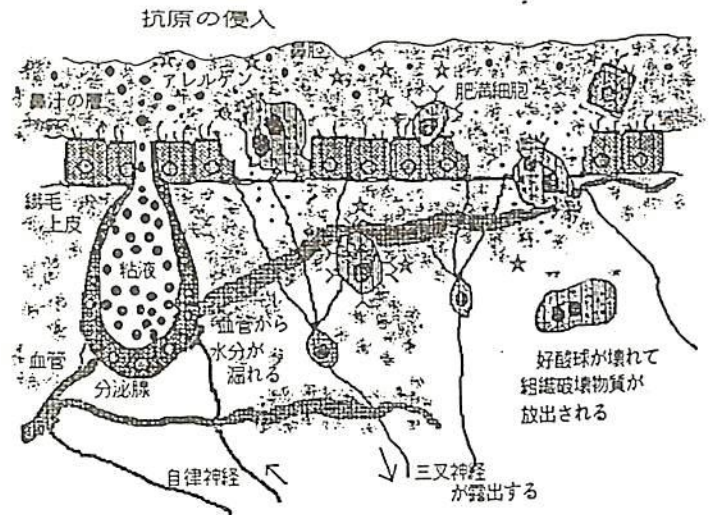
反応とは

抗原・抗体反応（免疫反応）に基づいて起きる、人にとって好ましくない生理的反応

アレルギーの現代における定義



- ・アレルゲン（アレルギーのもと、たとえば杉の花粉）を一回吸った時には、まず、感作ということがおこります。敵が侵入したということを認知する作用です。この時は症状はありません。
- ・骨髄で作られた若いリンパ球がB型とT型に分化します。
- ・体内に杉の花粉とかダニの粉とかが入ると、食細胞（白血球の一種）がこれを捕らえ、変なものを食っちゃったぞと、その情報を、T型リン



バ球に伝達しまへルバーT型(お助け型)リンパ球がその情報に對してIGE抗体を作れという命令をB型リンパ球に命令を出します。これが、感作です。

普通の人は、サブレッサーT型(抑制型)リンパ球が、そんなに作っちゃ体に毒だよという指令を出すので、そう病気になるなくてすみます。さっき作られたIGE抗体が、組織内に入って肥大細胞と合体し戦闘準備が完了。これで感作の完成です。

この状態で新たにアレルゲンが体内に入ると肥大細胞から化学伝達物質が放出されます。戦闘準備ができていたので、一〇分位で反応します。

そうすると、血管から水が漏れたり(血管透過性亢進)、ズキズキ・ヒリヒリ・くしゃみやせき(三叉神経などの刺激)をしたり、気管支が収縮して喘息発作がおきたり(平滑筋収縮)、鼻汁がドロドロになったり(分泌亢進)、いろんな症状があらわれます。

さらに、そうすると、好酸球が集まってきて、つぶれて細胞内の毒素を出します。粘膜がはがれ、三叉神経などが露出され余計にひどくなってしまいます。

だから、アレルギー性鼻炎になったら、できるだけ早期に押さえないと粘膜がどんどん破壊され治りにくくなってしまいます。

反応はアレルゲンを吸っている間、ずっと続きます。

(次号は 対策についてです。)

五、耳鼻科の疾患と子供の病気③

石田 正人先生

* アレルギーの原因になるもの

1 家の外

スギ・ヨモギ・ススキ・イネ科の植物など

昼間に多いアレルギーで、症状がひどいので本人も承知のうえで、薬でコントロールできるので、比較的楽です。季節性なので、年中苦しむことはありません。

2 家中

ハウスダスト・ダニ・タタミ・ワラ・キノ・ネコ・カビなど

主に夜が中心のアレルギーで、じわじわくるのでそれほど気にせず、なかなか本人も自覚しないところが恐ろしいと言えます。住むところに、付随したもので、一年中苦しむことになります。

- ◎ 家中と外と両方重なることもあり、この場合は一日中症状が続きます。
- ◎ もう一つ大切なことはハウスダスト(ダニ)アレルギーは大部分が小児期にはじまります。そのため小さな子どもが中耳炎などの病気を、くり返す原因になります。また、花粉アレルギーは多くは大人になってから始まります。

* 見直してみましよう、家の中

① エアコン

- ・夏も冬も、室温二五度〜三〇度。また、暖房を止めて、室温が下がると急激に湿度は上がります。
- ・冬の乾燥注意報は屋外での話で、室内の天井・天井裏・押し入れなどでは高温になります。
- ・吹き出し口からは、ほこりがいっぱい出ます。定期的にフィルターを掃除し、シーズンの使い始めは、昼間一〜二時間、窓を開けて風を通してから使うとよいでしょう。
- ・エアコン内部に湿気をおびるため、夏は三日放置すると、カビが繁殖すると言われています。
- ・また、もっと大切なことは部屋の換気を十分行うことです。

② ホットカーペット

- ・夏の間、押し入れ中でダニが繁殖します。それを冬になって乾燥させ、粉々にし、上昇気流にのせて、部屋の中にはばらまく道具です。

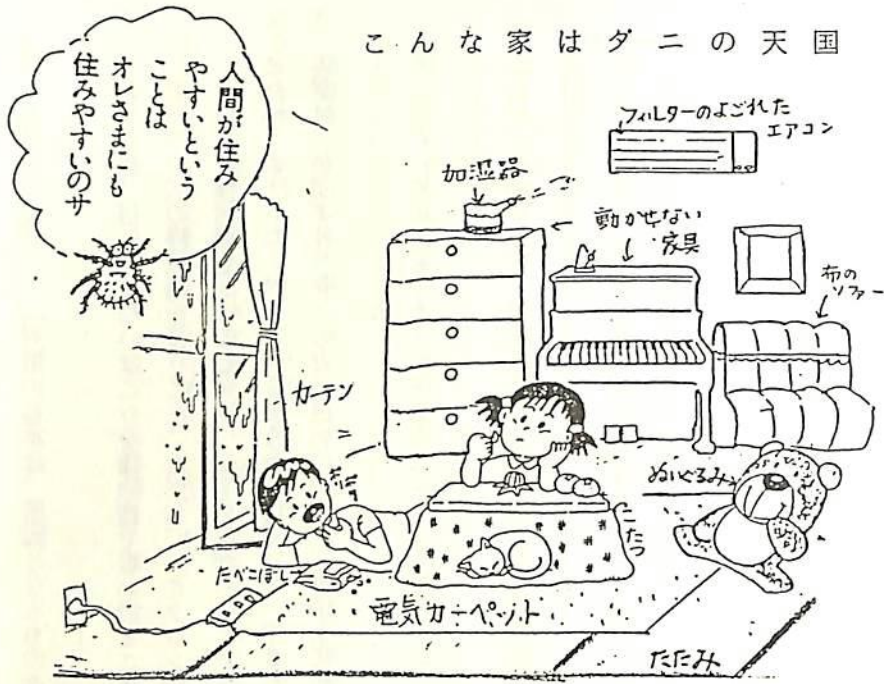
③ 加湿器

- ・湿り気の好きなダニにとって加湿器は天の恵みです。

④ 掃除機

- ・紙パック式でない掃除機は最悪。ほこりをばらまく道具です。古いタイプ（主にネル式）のものは中でダニが生存しています。そのうえ、アレルギーのもとになるホコリやカビは織り目をすり抜けて空気といっしょに吹き出します。
- ・最近のものは、吸引のときにダニを死滅させ、また、フィルターの目も小さくなっています。

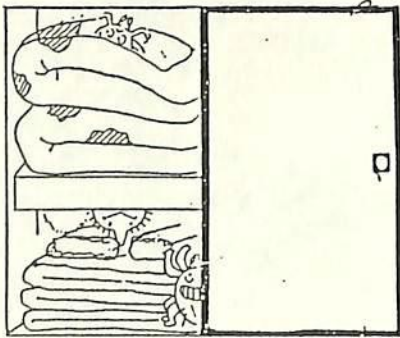
こんな家はダニの天国



夏の押し入れは温度蔵庫？

夏の間、冬布団、毛布、電気カーペットなどがある押し入れは、適度な湿度と温度で、ダニにとってはまさに天国。夏の間、押し入れの中で、どんどん繁殖します。秋の訪れとともに、ダニの死がいやふんがいっぱいついた毛布や布団を押し入れから出すと、とたんに症状が現れます。季節の変わり目の病気はこれが最大の原因です。

布団は使う前に必ず、掃除機をかけホコリを吸い取り、毛布はできるだけ流水で流しながら洗うことが大切です。干すだけではほとんど意味がありません。



＊ 対 策 (対策の基本は、原因となるものを集めて捨てることです。)

- 1 これが一番。目に見えないほこりを掃除機で吸い取る。
紙パック式の掃除機を使うこと。ただし、一ミクロン以下(千分の一ミリメートル)のものは吹き出し口から出てしまうので、掃除機をかけるときは、必ず窓を開けてください。
- 2 こたつ、ホットカーペット、じゅうたんは避ける。できれば、板の間が望ましい。
- 3 寝室は、布団よりベッドの方が良いのですが、畳の上にベッドでは意味がありません。

＊ アレルギ―疾患と上手につきまらう方法

アレルギ―は怖がることはありません。一通りこつを覚え、ポイントを押さえればいいのです。

- 1 症状が出たら、早めに薬でコントロールする。
- 2 年一、二回物置まで全部拭き掃除をする。
- 3 おかしいなと思った時に、布団に掃除機をかける。(夏、月一四回 冬、月一回)
- 4 ゴミがあっても病気にはならないが、ホコリは体内に侵入し、病気を起こすことを理解すること。

年々増加傾向にあるアレルギ―疾患です。気長に上手につき合っていきましょう。

おわり

六八、インソディアカ

二月十四日、バレンタインデー。春がすぐそこまで来ているような天気の良い日でした。

参加人数も学年対抗ができるまでに集まりました。インディアカというスポーツは初めてという人ばかりでしたが、ルールがバレーボールに似ているため、すぐにゲームに入ることができました。

コートはバトミントンの広さですが四人制なので、けっこうハードです。

始めてあった人どうしが、名前を呼び合い、和気あいあい、いえそれ以上に熱が入り盛り上がりました。決勝戦など、一点を争うシューシューゲームとなり、歓声が飛びかう中、素晴らしいプレーが続きました。

この会を通し、インディアカというスポーツが楽しいものだということが広まってくれれば良いと思います。

横山 博美



六、ふるさと上地九年の歩みシリーズ

上地八景



2 国道248号線

岡崎市内を南北に縦断し「ニイヨンバア」と愛称され、買い物や通勤に欠かせない生活道路ともなっている。特に街路樹の整備が目立ち、プラタナスやケヤキが立ち並び、歩道のカンツバキやツツジの開花時の美しさは格別である。

県緑化推進大会パンフレットより

記念植樹について

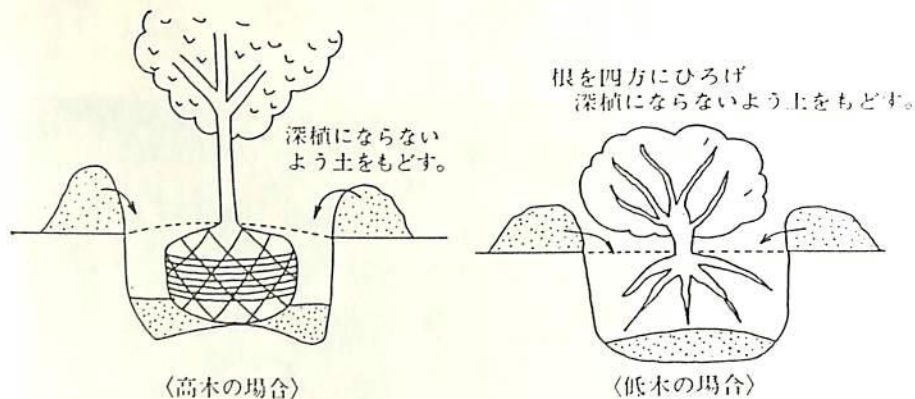
1. 本日、緑化推進大会に参加された皆様には、参加を記念して植樹をしていただきますが、植栽の場所と樹種については本大会資料4ページの会場見取り図のとおりです。

植栽場所には係員が御案内いたしますので、よろしくお願いします。

植栽樹木は参加された皆様に各1本～2本を用意しております。

2. 植栽樹木は、植栽場所に配置してありますので、図のとおり深植にならないように土をもどし植え込んでください。

なお、根鉢のない小さな苗木は、根を四方によくひろげて植え込んでください。



3. 植栽用具としては、植栽場所に片手鍬を用意してありますので、交替でお使ください。

御使用になりました片手鍬は、大会終了後係員が収納いたしますから、その場に置いてお戻りください。

四月四日に開校式・入学式を挙行するに当たり、私たちはPTAの方々と共に春休み返上の準備作業を始めました。
あいにく、連日の雨続きで運動場は、まるで泥沼の田んぼ状態でした。

一、愛知県緑化推進大会の

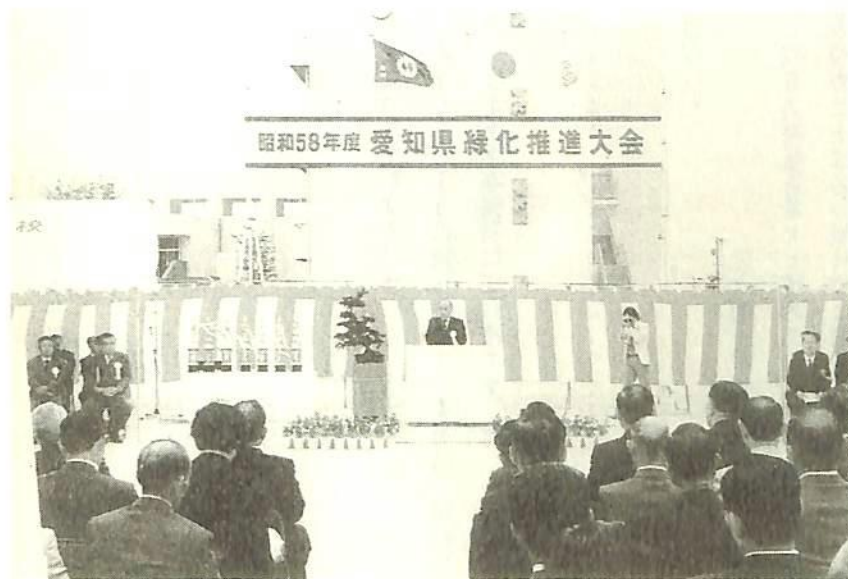
△会場校に

開校後一か月もたたないうちに、本校が愛知県緑化推進大会の会場と決まりました。これは、一気に学校の環境緑化を進めようという愛知県・西三河事務所・岡崎市教育委員会・岡崎市公園緑地課の温かいご配慮があったからだと思えます。

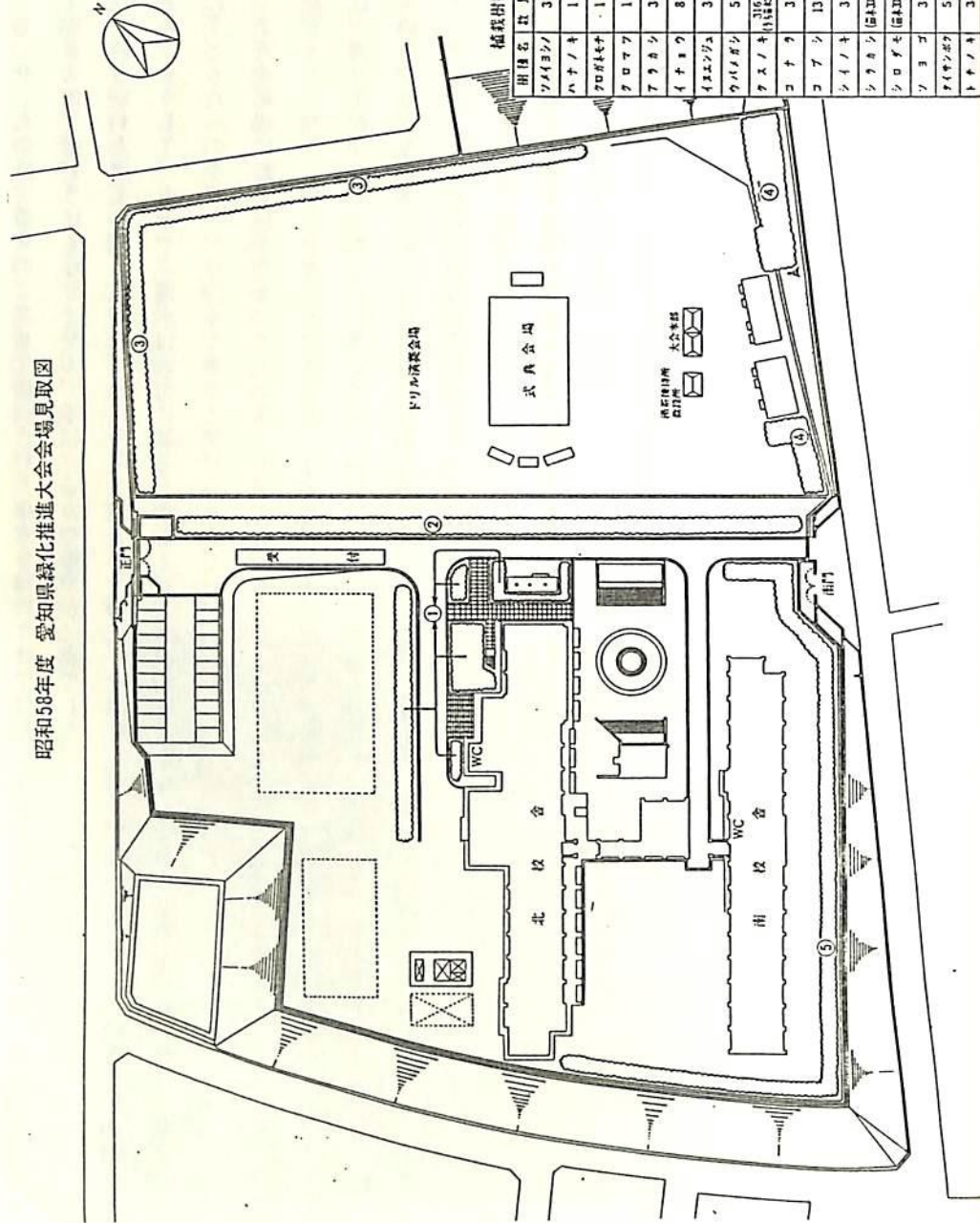
こうした決定があると、それ以後、連日関係者が来校され、樹木の種類の選定や配置、更には当日の進行等について打ち合わせが続きました。

丘陵地を削り取って校地としたため、白垂の新校舎が建っているのみで学校の周囲は全く殺風景な、緑のない眺めでした。しかし、待ちに待った五月二十八日の植樹祭によって、一日にして校地は大様々な樹木で埋まりました。

「地に緑、心にロマン、まちに愛」



愛知県緑化推進大会で挨拶する中根岡崎市長



樹種名	数量	備注	数量
ソノチチ	3	1977年7月	15
ハナノキ	1	1978年7月	5
70年木	1	ハナノキ	10
70年木	1	ハナノキ	10
70年木	3	ハナノキ	2
イチョウ	8	1977年	8
イソノキ	3	1977年	60
ウバノキ	5	1977年	2
クスノキ	316	1977年	170
コナラ	3	1977年	5
コナラ	13	1977年	400
シイノキ	3	1977年	280
シイノキ	3	1977年	100
シロヤシ	3	1977年	2
ソノチチ	3	1977年	100
ソノチチ	5	1977年	2,140

が、昭和五十八年度愛知県緑化推進大会の中心スローガンでした。
 この日、愛知県知事・愛知県議会議長・岡崎市市長等各界を代表する多くの来賓をお迎えしていました。
 そして、県下林業関係者や学校環境緑化コンクール優秀校への表彰が行なわれ、参加者全員による植樹が合せて実施されました。
 特に忘れられないのは、昭和天皇御下賜金による「桜」の大樹でした。（校訓塔「力いっぱい」の南にあります）
 別紙「見取り図」のように計画的に植樹されただけに、この日を境に、校地・校舎が一段とひきたち、学校らしさを増していきました。
 一、一日も欠かせなかつた灌水
 植樹祭以後も、愛知県・西三河事務所・岡崎市より、何かと樹木の補充を頂きました。
 特に低木については、「緑の銀行」からの提供を受けたり、岡崎小学校からはいすの木・福岡小学校からはまつの木等「友情の木」を贈呈されました。上地小学校と共に大きく成長を続けている現在の姿を眼の当りにして感慨無量のものがあります。



校訓塔周辺の植樹に汗を流す大会参加の皆さんと上地っ子

私たちが一番心配したのは、折角のご厚意で植樹された樹木を枯死させてはならないことでした。それには、ひとり緑化に当たる職員の方ではどうにもなりません。学校ぐるみの努力が必要でした。

植樹祭以後、降り続いた春雨の頃とは逆に、そろそろ入梅というのに、皮肉にも雨量が極めて少なく、晴天を眺め溜息をついたものでした。こうして、もはや、灌水は人力に頼るしかなく、人海戦術を余儀なくされました。学級の樹木を決め、登校後と下校前に子どもたちの手でバケツ灌水が幾日も続けられました。

この頃は、まだ運動場に散水栓がなかったため苦労しました。その後、八月になって、岡崎市教育委員会のお世話で運動場にも水道の配管をして頂き、ずい分楽になりました。子どもたちも、夏休みには当番制で朝夕の灌水に登校し、自分たちの学校という意識が盛り上がっていったように思います。時には、ご父兄の姿も見られ、恐縮したことが思い出されます。子どもたちの手が届かない西・南の土手斜面は乾燥しやすく、一番苦労しました。当時の五年生や六年生の子どもたちにとっては辛かったです。忘れられない思い出となったことでしょう。

二、上地小学校らしきことに工夫をこらす

植樹祭で一気に緑が増えましたが、これに加えて、上地小学校らしい環境緑化への夢が欲しくなってきました。この上地小学校の地は、もともと、自然のままの山の緑に覆われたところでした。

心ゆくまで自然に近づきたい、こんな思いから、岡崎市教育委員会の加藤浩二担当係長さんを初め、多くの方々と相談を重ね、夢の実現を果たすべく努力しました。

小鳥が来て遊べる「くろがねもち」の森づくりを目指して、小雪のちらつく寒い冬の日に校務員さんと西尾までトラックを走らせました。また、「山もも」の木を篤志家から頂いたり、南公園で不要になったヒマラヤシイダの大木（バックネット北側にあります）を岡崎市から頂いたりして、着々と整備を進めていきました。

標高四十メートルに近い高台に建てられた本校は、風当りが強いため、砂塵よけの目的で会社から「カイヅカイブキ」を頂いて植樹しました。

これにより、「防風林」としての働きもできたと思います。

今も、印象に残る木々を記してみます。

- ・ 体育館南の「アメリカハナミズキ」の淡く美しい花、
- ・ 校門の東西に続く「ツツジ」密植の美、
- ・ 体育館東側「ナンキンハゼ」の紅葉が舞う風情
- ・ 運動場西側の「クスノキ」並木

これらも、上地小学校ならではの特色と言えるのではないのでしょうか。

上地っ子の皆さんが、上地小学校の校訓
「力いっぱい」

を胸に、現状に甘んずることなく、先進校に学び、また、灌水に真夏の汗を流した卒業生先輩の意志を継いでいってほしいと思います。

植物は正直で、自然に敏感です。それを少しでも、人の力で補助していくことが、二十一世紀に生きていく者の課題だと信じます。



体育館南できれいな花を咲かせるアメリカハナミズキ

二、南公園のプールを借りて全校水泳

―開校初年度の学校づくりを回想―

「学校の周りに何もなかったということがよく分かるねえ。」

「プールもない、体育館もない、緑もない。」

「九年前と比べると、すっかり変わりましたね。」

昭和五十八年度、上地小学校第一回卒業アルバムの写真を手にした職員や職員室を訪ねた学区の方々の声です。よく見ると、確かに、上地学区・学校九年間の大きな変貌を感じさせられます。

中庭には、レインボータワーもありません。もちろん、子どもたち人气的である砂山も見当たりません。それだけではありません。体育館、そして、プールもありません。子どもたちの憩いの場として親しまれている藤棚もありません。校庭の南

北東西につながる堤には、ほとんど樹木のかげも見当たりません。バックネット東には、子どもの家や市民ホームもなく、ただ、建築中の若松屋さんのお宅しかありません。きちんと、区画

された三十あまりの空き地が連なっているだけです。「何と淋しい光景でしょう。学校の周辺に一軒も家がないなんて考えられません。」

「プールの下は沼地だったんですか。」

アルバムを見た新任の深津先生や教職三年目を迎えたばかりの富田先生が驚きの声を上げました。

南公園プールの借用した五十八年

―開校当初の学校沿革―

以下、開校の年五十八年度の上地小学校沿革を紹介します。先輩たちが築いてきた貴重な歩みをたどってみましょう。

五十八年度(野田校長・早川教頭)

職員数 二三名 児童数 五八二名
学区人口四五〇〇名

四月 四日 完工・開校・入学・始業式の挙行

五月 六日 PTA設立総会開催

五月 二八日 愛知県緑化推進大会開催

七月 九日 南公園プール借用開始

二月 一六日 上地町寄贈により校訓塔設置

三月 四日 ピアノ開鍵式の挙行

三月 一六日 第一回同窓会入会式の挙行

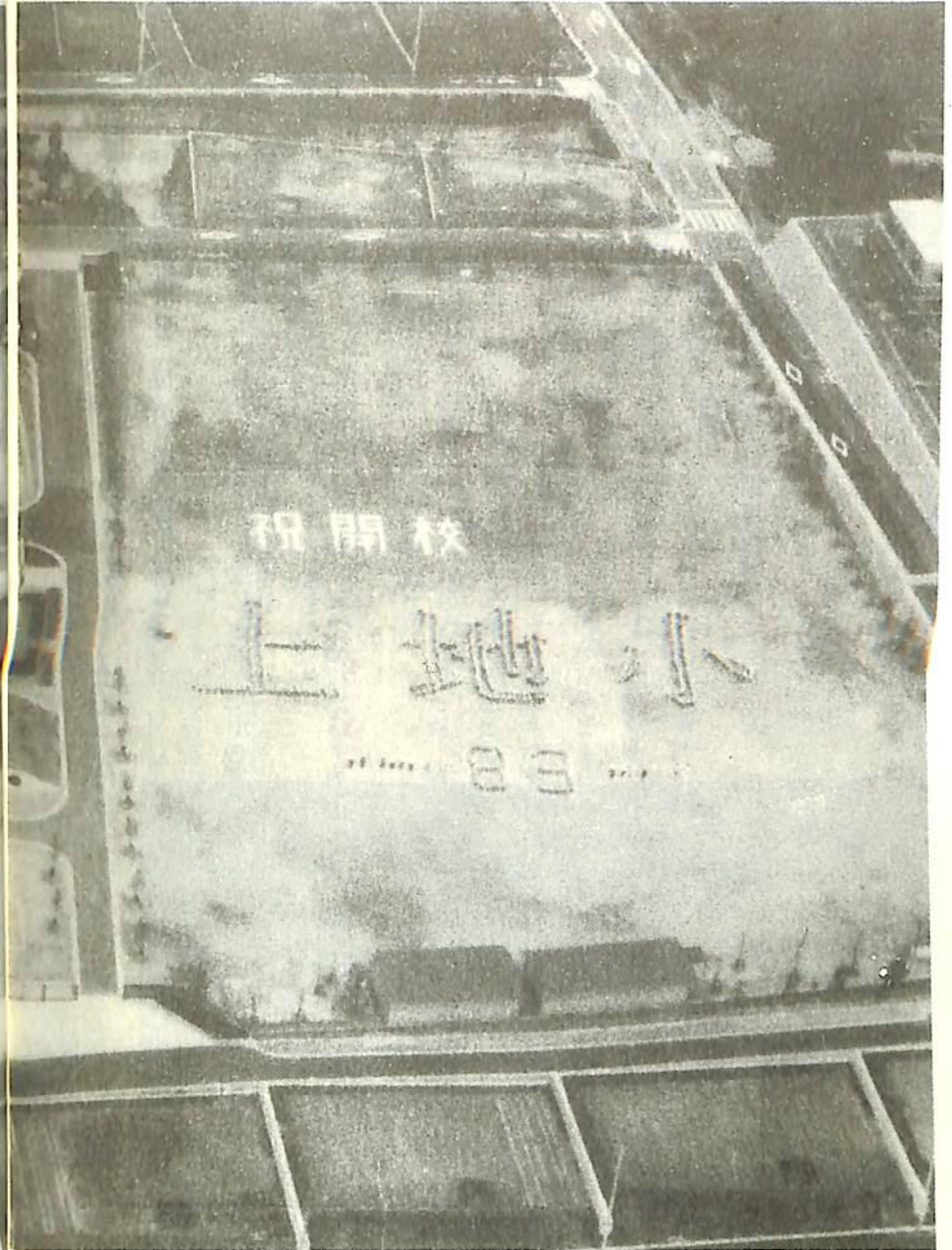
三月 二七日 岡崎信用金庫寄贈により校旗作成

次に、本校酒井幾子先生から南公園プールを借用した

初年度の回顧を寄せて頂きました。 教頭 松原 暁三



バックネット前に並んだ当時のソフトボール部員
(西側斜面には樹木もなく地肌が露出している。)



開校の年の航空写真（第1回卒業アルバムより）

〔体育館、プール、南校舎、なかよし池などの施設が見られない。
 学校周辺は、宅地のままで見られない。
 側面の植生も小さくまばらである。〕

南公園のプールに、子供の楽しそうな声が響きます。開校一年目、上地小学校にはプールがありませんでした。そこで、学校のすぐ近くにある南公園のプールをお借りすることになりました。プールは、上地小学校の児童のために半日貸し切りとなり、全校体制で水泳指導が行われました。

朝の会が終わわり、少し学習すると、プールに行くために着替えです。南公園のプールの更衣室では大勢が着替えることができませぬ。各教室で水着に着替えます。一年生にとっては入学して初めてのプールです。着替えの時から声が弾み、自然に顔がほころびます。プールに入るのが待ち遠しくてたまらない様子です。

「ぼく、バタバタしておよげるんだよ。」

「ぼくだってよ。」

「先生、もぐれる？わたしは、顔がつけられるんだよ。この間、お父さんとプールへ行って練習したもん。」

と楽しさをかくしきれず、着替えの手を止め話にはながさいています。

水着の上にTシャツを一枚着て、並んで歩いてプールへ行きます。

噴水のある小さいプールが一・二年生。大きいプールが三・四・五・六年生です。みんなそろって準備体操を行い、プールに入ります。「わあ。」「きゃあ。」と歓声があがります。水かけごっこ・石拾いゲームをやる一・二年生。黒色の水泳帽子をかぶった野田校長先生も一・二年生の子ともたちと一緒に電車ごっこをして噴水の下をくぐっています。どの子どももはちきれんばかりの笑顔です。楽しくて楽しくてたまらないという様子です。

大きいプールでは順番に子どもたちが泳いでいます。プールの中で、足の形を手とり足とりで教えてもらっている子、息つ

ぎの仕方を練習している子。どの子も一生懸命に泳いでいます。

楽しい楽しいプール。しかし、楽しいことはすぐ過ぎてしまいます。持ってきたタオルで体を拭き、学校まで並んで帰ります。

「先生、噴水の下をくぐったよ。」

「顔に水がかかったけど、ぜんぜんこわくなかったよ。」

「もつとたくさん泳ぎたかったよ。今度はいつプールに行くの。」

「プールに入ったからおなかすいちやった。早く給食食べたいよ。」
と帰り道は、楽しんだプール話が弾みます。

全校で出かけたプール学習ということや、たった二回しか機会がなかったというふうに泳げなかったという点がとても残念でした。しかし、南公園のプールが近くにあるということで、上地小学校全体として楽しくプール学習ができ、とても楽しい思い出ができたと思います。



南公園プールでの水泳学習（第1回卒業アルバムより）

二、雨が降っても一時間で使える運動場を

―開校当初のグラウンドづくりを回想―

「グラウンドが広くて百メートル走路がトラックを横切らなくても取れますからいいですよ。」

「ナイター設備まで整っていいですね。」

「トラックにロープが張ってあり、ライン引きの時間が短縮でき、いろいろな運動が効率的にできるのがありがたいです。」
本校体育主任の鶴田先生が、梅雨の晴れ間の運動場を眺めて言いました。「上地の山を動かす」大工事から誕生したグラウンドです。そんな事情を思い起こさせるのが市民ホーム西側の土手にあります。そこには、今尚、固い岩盤が顔をのぞかせ、移植されたつつじが根を張るのを拒否し続けています。今の運動場がかかえる問題も、ここにあるようです。

「水はけは、まあまあですが、サッカーゴール前やなかよし池側はあまりよくないですね。」

「雨が長く降り続けると、砂が流されて下にあった石が浮き出してしまうのが問題ですね。」

「切れたロープの補修も忘れられない仕事のひとつとなっています。」

と、現在のグラウンドが抱える問題点の指摘もありました。二百メートルトラックがグラウンドの中央に取れ、学区民体育祭や夏祭りなど二千五百人を越す人たちの集まりにも使われ、名実ともに上地学区の体育・文化センターの役割も果たしています。

グラウンド面積は九、二二六平方メートルで、周囲は開校九年の歩みを語る緑に囲まれています。以下、開校当初の本校体育主任であった夏目恒男先生（現在、附属岡崎中学校教諭）の寄稿を紹介致します。

松原 暁三

上地小学校運動場づくりの思い出

―開校当初のグラウンド整備―

「夏目君、新しい学校の運動場を設計してみてくださいないか。」

昭和五十七年のいつごろだったろうか。私は当時、福岡小学校に勤めていました。上地小学校開設事務の早川教頭先生が、私に言われました。体育の教師にとって、運動場や体育館を自分で設計できるとは光栄です。

そこで、自分の理想としている運動場を描いてみました。

- 一、校舎と運動場が離れていること。
- 一、前が降っても、水はけが良く二時間経てば使えること。
- 一、トラックは直線部分が四十メートル取れ、一周二百メートルが取れること。
- 一、トラックは直線百メートルが楽に取れること。
- 一、トラックは六コースが取れること。
- 一、ソフトとサッカーのコートがうまくトラックと重なりあっていること。
- 一、子どもたちが使いやすいようにコートができていること。（いちいち石灰でラインを引かないですむように）
- 一、周囲が緑に囲まれていること。
- 一、周囲でトレーニングができたり、遊具があること。

これらについては、早川教頭先生もほぼ賛同されました。ただ、遊具の場所については、低学年の子どもたちが遊べる場に集中して置いたかどうかなど、なるほどと感心させられるご指導も頂きました。

その時は、まさかこの運動場で教師をすることになるうとは夢にも思いませんでした。



上地小学校開校1か月前の航空写真(昭和58年3月1日)

一、運動場づくりにも胸おどる

「夏目君、上地小学校へ行ってくれ。」

三月も半ば、校長先生から転勤の内示を受けました。まさかの事態に驚きました。こんなことなら、もっと具体的に注文をつけておくべきだったと、後悔もしました。

昭和五十八年三月二十五日から、開校の準備作業が始まりました。春休み返上です。

「運動場はどのように配置されているだろうか。」

……校舎と運動場は、舗装道路で完全に仕切られている。直線は、百二十メートル取れる。広さは二百メートルトラックが十分取れる。三百メートルのトラックが取れるかもしれない。サッカーコートも二面取れそうだ。……

「これはすごい！希望通りだ！」と、こおどりました。

ところが、体育館とは違い、運動場は設計図通り作ってくれるものではありません。敷地は確保されているものの、何もないのが運動場です。

「さあ、これからが大変だ。早く自分たちの手で、子どもたちが

存分に使える運動場にしなければ。」

何もない運動場を眺めながら、夢をふくらませていきました。早速、当初の設計図を修正し、運動場づくりに取りかかりました。しかし、そこにはいくつかの苦勞が待っていました。

二、どうしてこんなに石が多いのか

まず、その一つは石拾いでした。運動場の手前三分の一ほどの広さにわたって、碎石が敷き詰められているのです。ちょうど直線百メートルトラックの一番重要な部分です。そこが、資材置場になっていたのでしょうか。おそらく、工事が終わった時、ぬかるんだ地面を固めるために砂利をまいたのでしょうか。

小言を言っているも仕方ありません。子どもたちと一緒に、来る日も来る日も石拾いに精を出しました。しかし、拾っても拾っても出てくる石には、全く閉口しました。これが、以後もずっと悩まされた問題です。今にして思えば、あの時、無理を言っても土の入れ直しをお願いすべきだったのでしょうか。

三、使いやすい運動場を目指して

普通、学校の運動場は、トラック部分だけにロープが張られていることが多いようです。私たちが、考えていた理想の運動場は体育館のフロアと同様に、必要なコートは予め準備されていたほうが便利だということでした。体育の授業や部活動、運動会などの行事の度に、いちいちメジャーで測定し、石灰で線引きするのでは時間の不経済というものです。何と言っても使いやすいということが第一です。



急ピッチに進む運動場工事（昭和58年2月）

くらの量を入れたか分からないほどです。

土を入れれば、ならさなくてはなりません。業者に依頼すれば簡単ですが、費用が重みます。土の費用だけでも莫大な額なのに、ならし作業までは予算がありません。

学級の子どもたちや五年生六年生の高学年や、授業後にはサッカー部やソフト部の子どもたちの手で、山と積まれたサバ土をならし続けました。ありがたいことに、子どもたちはこうした作業を喜び、一言の文句も言わずにやってくれました。

「自分たちの力で自分たちの運動場を作るんだ。」

こんな感慨があったからなのでしょう。おかげで、一輪車や竹み、スコップの使い方を覚え、足腰を鍛える結果となり、まさに一石二鳥の収穫になりました。

四、△主職員の力で

夏休みになると、今度は運動場に置く予定のベンチづくりです。古電柱を使って作り上げ、きれいにペンキを塗って仕上げられたベンチは一層運動場を美しく飾りました。加えて、古タイヤを埋めたりして遊具づくりにも汗を流しました。ベンチに腰をおろし、タイヤを飛び越しながら談笑し合う子どもたちの姿は、私たちの流した汗を忘れさせてくれました。

こうして秋の運動会時には、どうか、雨を心配しなくてもよい運動場に変わっていききました。この年の五月に行なわれた全国植樹祭で植えて頂いた樹木もすっかり成長し、今では運動場の周囲に大きな木陰を作り出しています。今後も、上地小学校のグラウンドが、一層整備され、学校と学区の方々に愛され親しまれていくことを願っています。

岡崎附属中学校教諭 夏目 恒男

開校後も四月半ばまで、時間を見つけては運動場のロープ張りに取り組みました。いろいろな運動に対処できるようにと、作った設計図をもとに作業を続けました。

ロープ張りのピンをつくり、足に引っかからないように一メートルから場所によっては二メートル間隔でロープを張っていきまします。打っても打っても、地中に埋められた石に当たってピンが入っていないのには、本当に骨が折れました。

こうして、張り終えた時には、自分たちで作った運動場という実感が胸がいっぱいになりました。

二、サバ土で運動場をならす

「雨が降っても、二時間で使える運動場であること」

これは、体育教師でなくても誰もが願うことでしょう。早川教頭先生に提出した希望の二番目に入れておいたことです。しかし残念なことに、水はけの悪さは目を覆うものがありました。

一度雨が降れば、二三日はぬかるみ、使えない状態でした。

校長先生にお願いし、ことあることにサバ土を入れました。どれ



完成間近な運動場（昭和58年3月）

四、上地小学校開校への歩みをたどって①

―初代早川正己教頭の回想― その1

このシリーズ取材も、すでに半ばにさしかかりました。区画整理事業による学区学校の開設とあって、物心両面にわたる準備は、まさにすべてが「初体験」の連続だったと思います。

「職員室西側のガラス窓は、当初の設計図にはなかったもの。これでは、運動場で遊ぶ子どもたちの様子が見られないということで、市当局と何度も折衝したのは早川教頭先生だったはず。」

「非常に緻密な計画をたてて、開校式を迎えたのも早川教頭先生だった。」

開校当初から在職している本校の先生や松田初代PTA会長さんが、異口同音に早川教頭先生の業績を語られています。こんなこともあって、早川先生にお会いするたびに、当時の思い出をお聞きしていました。

そして、とうとう今回、学校だよりご登場という私たちの夢をかなえて頂けることになったのです。

先生は現在、六ツ美市民センターの主事として勤務されています。多忙なお時間をさいて、長文にわたる寄稿を賜ることになりました。早速その紹介に移ります。

「上地小学校を去ってから、長い間たちましたが、私にとっては生涯忘れられない思い出となっています。」

先生の柔和な笑顔が、六ツ美市民センターの玄関に映えました。

松原 暁三

「上地小学校開設事務取扱い」を拝命

初代上地小学校教頭 早川 正己

波乱に富んだ四十一年間の教員生活を今振り返ってみますと、それぞれの赴任校での思い出は余りにも多く、枚挙にいとまがありません。

校務主任が、その学校の物理的、環境的な充実を図ることが仕事の中心ならば、教務主任は子どもに直接影響を与える学校の研究の要です。しかし、これとて、小中学校では若干趣を異にします。たった一年の養中学校の勤めではありましたが、そこでの思い出は数限りなく、今もはっきりと脳裏に焼き付いています。

子どもたちとの関わりの複雑さは、一昔前とは大層な様変りで、その頃は、教師苦難の時期と言ってもよかったですと思われる。そんな教務主任としての生活があと二年位は続くと思っていた矢先でした。

「上地小学校（仮称）開設事務取扱いを命ずる」

この一枚の辞令のずっしりとした重みと難しさは、私にとって経験皆無の未知の世界であった為、どう乗り切れるのか不安が先立ち、大きな緊張を覚えました。

地域や先九輩の導きを期待し開設事務に当たると

しかし、次のこと等を意識しながら、自らを勇気づけました。

- ・赴任校に大門小学校開設の経験者であるU先生がおられ、何かと相談相手となり力を貸して頂けそうなこと。
- ・上地小学校の母体校と言える岡崎羽根小学校・福岡小学校には、通算二十七年間勤務し多くの卒業生や保護者と面識があ

り、人のつながりが強く、便宜が図ってもらえそうなこと。
・赴任校初め周辺校の校長先生が理解ある相談相手として協力して頂けそうなこと。

こんなこと等を自身に言い聞かせ、時としては四面楚歌となることも予想される福岡小学校での第一歩を踏み出しました。

以下、開校準備の一年間にわたる仕事の一端を振り返り、感想を交えながら記してみたいと思います。

五つの点に留意して開校校準準備

勤務校となった福岡小学校では、中途半端な立場にあることをわきまえなければならず、孤独に耐えつつ可能な限り前向きに仕事をしようと覚悟を固めました。そこで、次の五つの観点を考えてみました。

- 一、校地校舎建設の進行状況とその記録をとること。
- 二、開校に向けて、受け入れ児童の完全な把握を図ること。
- 三、適切な購入計画に基づく、学校備品・消耗品の確保と恒久的諸施設の設置に当たること。



上地小学校建設工事前の校地（昭和47年度）

四、PTAを初め学区内の各種団体の組織づくりに当たること。

これら五つの項目を挙げてはみましたが、いずれも私一人の手におえる事柄ではなく、福岡小学校の職員・PTA・学区民・市教育委員会・市役所関係部課・市議会等や各種業者等々の係わりの中でこそ成り立つものです。

十八学級での開校を予定

昭和五十七年四月十五日、市教育委員会での打ち合わせの折、

「五十八年に開校することが決まっているだけで、他はすべて白紙である。」と説明され、いささか驚きを覚えました。

また、四月十九日の福岡小学校PTA総会の席上、地元市議会議員から大要次のような上地小学校開設の構想が発表されました。

「普通教室十八。職員室校長室他特別教室の建築が計画されており、プール建設は交渉中。」

この「普通教室十八」というのは、児童数の試算から構想されたものだったと思われまます。実は、この開設当初の学級数・児童数が国の補助金と関係し、備品購入や施設設備の充実に大きく関わってくることを後になって知らされました。

一つの学校が開設されるに当たって考えられることは、校地校舎という「入れ物」、つまり中に入る児童や職員とそれを取りまく学区民でしょう。それらがうまく調和していつこそ、新設校開設成功につながるものと思います。

校地校舎については、専門的に手がけておられる市の土木建築課に任せなければなりません。しかし、私は将来ここで生活することになる児童や職員の願いも率直に述べていきました。学校現場からの要望とでもいった気持から、少しでも快適な学校生活の実現を期待したからでもあります。（以下校区の線引きなどについては、次号に続きます。）

上地小学校開校への歩みをたどって②

―初代早川正己教頭の回想―その2

「上地小学校開設事務取扱い」として、まさに東奔西走の毎日をご過ごされた早川先生の寄稿は学校の内外に大きな反響を呼び起こしました。

「学校の金庫にある開校のアルバムは、学区づくりから記されていて、そのいきさつが本当によく分かる。あれは、緻密な早川先生だったからこそその成果だったでしょう。」

「来年度発行予定の郷土読本「うえじ」の原稿にぜひ生かさなければ……。」

「思い出しますね、開校の頃の忙しさを。早川先生には、連日ご厄介になりましたからね。」

「学区境界の線引きなど、今後の上地づくりにも大きな影響を与えた話題が楽しみですね。」

本校の郷土読本スタッフや学区総代さんたちの声です。

さて、いよいよ、学区境界など難題に取り組むいきさつなどにふれた続編をご紹介します。

松原 暁三

校区範囲の把握に入る

十八学級での開校に目途がついたところで、今度は先ず手始めに校区に予想される岡崎・福岡・緑丘三学区の児童数

と町別児童数の把握に入りました。

昭和五十七年度の前半は、学校建築も遅々として進みませんでした。しかし、一学期の半ばにもなると、だだっ広い学校予定地に校舎一階二階と型枠がはずされ、学校らしい形が姿を現わしてきました。これまで、不自由な遠距離通学を余儀なくされていた児童や保護者の夢が次第にふくらんでいくようでした。

校区境界線引きに複雑な思い

完成間近な新しい上地区画整理地内に新築移転して来られた親子さんたちは、当然開設予定の本校を希望し、新設校誕生に大きな期待を寄せておられます。しかし、福岡小学校・岡崎小学校共に伝統のある学校の親子さんは、古くからの在住者であればある程、心情的には複雑なものを抱かれていたと察せられました。同じ住所にいながら、親子で卒業学校を異にしなければならぬのかという、親の気持は無理からぬものがあると思います。

特に、福岡町地内では、県道幸田線以東の方たちの揺れ動く気持はよく伝わってきました。また、上地町地内においても、学区の線引きが現在のJR線以東か県道岡崎幸田線になるか、あるいはもっと東になるかが、至る所で噂されていました。

こんなこともあって、私はごく内密のうちに、あらゆる線引きを想定して、開校時の児童数算定作業を進めていかざるを得ませんでした。こうして、いよいよ、昭和五十七年十月二十三日に岡崎市教育委員会が招集した会議が開催されることになりました。その席上、横井教育長さんから、次のような原則的な方向が示されました。

1、町を分離しない。

- 2、過大校を減らしていく。
- 3、緑南地区は、中学校開設に見合うように決定していく。

上地学区区線引き決定の生口小（岡崎市教育委員会告示第五号）

岡崎市立上地小学校					
上地町	福岡町	若松町	若松東二丁目	若松東二丁目	若松東二丁目
県道岡崎幸田線以東	小畑	西三田ケ入・山ノ田のうち国道二四八号線以東、石橋、奥山ノ田	全 域		

「上地小学校通学区区域説明会」以後、数回の学区線引き協議を重ねた結果、十一月九日に岡崎市教育委員会から右の表

のような学区決定の告示が出されました。

告示以後、予め作成準備しておいた、各小学校からの名簿と転入申込み控えに加えて近隣の保育園や幼稚園の資料、そして、岡崎市の次年度入学児の報告から新一年生を含めた児童数をつかむことができた。

新設上地小学校旧児童数（予備調査）

学級数	計	福岡小	緑丘小	岡崎小		
三	一〇〇	五一	〇	四九	一年	
三	一〇三	四七	六	五十	二年	
三	一〇二	五六	三	四三	三年	
二	八一	四四	五	三二	四年	
二	七六	四三	三	三十	五年	
二	八二	四六	二	三四	六年	
一五	五四四	二八七	一九	一三九	計	

この時点では、十五学級より増える可能性は薄くて、当初の試算を大きく下まわる状態でした。その原因は、緑丘学区の編成区域が実現しなかったことにあるようです。

しかし、これ以後の変動に備えて、区画整理事務所を尋ねて、土地購入者を調べたり、当時土地四区に開所されていた住宅建築会社の現場事務所で契約者の構成を調べたりして電話により住宅完成と学校への転入時期の確認などに努めました。

揺れる学区区近隣住民の心情

年が明けて、雨で遅れがちだった校舎建築もようやくその外郭を現わし始めました。その頃は、連日、備品購入計画や消耗品の書き出し、遊具などの購入計画を進めたり、多忙を極めていました

学区民の意識も、校舎建築の進展につれ、一層高まりをみせ、子どもたちの心にも期待と不安が交錯した複雑



工事中のサンクガーデン

な心の揺れが察せられました。岡崎小学校では、「上地小学校開設は結構だが、そのために学校が小人数になるのは、何となく悲しい。」という声が聞かれたりもしました。また、新設校の物不足も話題になり、不安をつのらせる状況もありました。こうした事情を耳にし、岡崎福岡両小学校に迷惑をかけ、しかも大勢の子どもたちを連れて、新設校に行くのが何か悪のような気に襲われることがありました。

いよいよよ、十五学級級で発元足

岡崎市内外の児童転出入についての、市役所学事係からの刻々と寄せられる連絡や個々の電話による転入などを処理しながら児童数確認に当たっていききました。岡崎医療刑務所の人事異動による児童転出入も知らせて頂き、全校児童数五百六十九人、学級数十五という数字を確定したのは昭和五十八年二月十五日のことでした。四年生が八十八名で、あと三名加われば、三学級編成になるところでした。

新築中の家があれば、家主を調べたり、転入の噂があれば、遠く長野県や岐阜県まで電話による問い合わせをしたりしていました。四月が近づくにつれ、ますます開校準備の仕事が複雑さを増し、私一人で処理していくには限界に近い量になっていました。

三月二十四日に教員人事の内示、そして、明るく二十五日は初顔合わせと、直ちに開校当日の諸準備に入って行きました。細部にわたる指示を出さなければ、仕事が進まず、疲労は極限状態になり声もでなくなったのも、今となってはよい思い出もあります。こうして、多くの方々のご援助で充実した開設準備の一年を全うできたことを心から感謝申し上げます。

五、上地小学校開校時の思い出①

—貫^{ぬき}同窓会長の寄稿—

本校第一回卒業生の貫宏光君が上地小学校同窓会長に就任されたことはすでにご承知のことと思います。「同窓会発足」を報じた今号でも記されていますが、同会の幹事さん四十八人も選出されました。昭和五十八年以後、毎卒業年時から、各学級二名の皆さんが幹事として同級生の名簿づくりに取りかかって下さっています。

「久しぶりに見た母校の変わりようにびっくりです」

「校庭の木々が大きくなったのに、驚いてしまった」

「当時は、牧場も池もありませんでした」

「家庭科室や図工室までできているんだから……。」

八月四日の第一回幹事会の後、校舎内外を見回しながら、卒業生たちの会話がはずんでいます。

「貫君、上地小学校が開校した頃の思い出を書いてくれませんか」

「あまりはつきりしたことは覚えていませんが、友だちにも聞きながら書いて見ます」

時折、学校を訪ねてくれる貫君と、こんな話に発展したのは九月の中ごろでした。

「本当に木がよく育ちました。自分もこんなに、成長できていたら……。」

貫青年は、にっこり笑いました。早速、寄稿の紹介に移ります。

松原 暁三

二、二校の子供が集まって開校

上地小学校が開校することを聞いたのは、確か私が岡崎小学校の五年生の時だったと思います。緑丘と岡崎と福岡の三つの学校が集まるとできると聞き、それでうまくやっていたのかという不安と、新しい友だちができるのではという期待が相半ばして、複雑な気持ちでした。

そして、上地小学校が開校されました。校舎は、まぶしい程の新しさと、岡崎小学校の子たちと別れてきた悲しみを忘れさせてくれました。毎日が、新鮮で心がはずんでいました。

しかし、残念なことに、プールと体育館はまだできていませんでした。だから、水泳授業は南公園のプールを借りて行っていました。こんな事情でしたから、今の子たちのように毎日泳ぐなどということはありません。でも、下級生たちと一緒に泳げたという楽しみもありました。

こうして、遠足・運動会・京都奈良の修学旅行・学芸会もあつという間に過ぎていき、体育館が完成し卒業式になってしまいました。折角なれた、緑丘や福岡の子たちとも中学進学で別れ別れになってしまいました。



サンクガーデン東にそろった6年生1組

校歌もなく淋しい思い

様々な思いがかけめぐる卒業式でしたが、何ととっても校歌ができていなくて淋しい思いがなりませんでした。岡崎小学校や緑丘小学校、福岡小学校には、立派な校歌があり力いっぱい歌えるのにと残念でした。

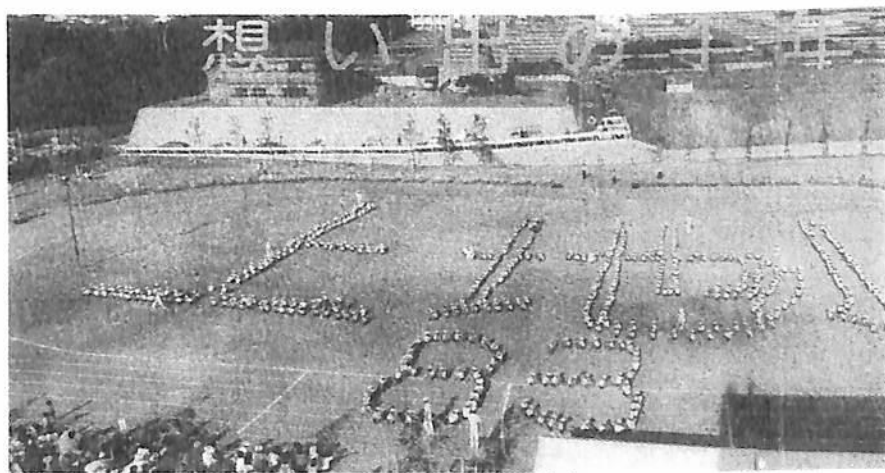
聞けば、今の上地小学校は、嶋田校長先生自らの作詞による校歌ができていたとのこと、ぜひ一度聞かせていただきたいと思っています。

上地小学校での生活は、たった一年間という短い期間でしたが、本当に楽しく、忘れられない経験の連続でした。何をやるのも、みな初めてで、真剣そのものだったような気がします。

先生方も、若々しくて、校訓のように「力いっぱい」だったと思います。その伝統は、今も続いていると後輩たちから聞き、とても嬉しいです。

私は、この度、上地小学校同窓会の会長をお引き受けることになってしまいました。私たちは、今年でやっと二十歳、十九歳になるという未熟者ばかりです。学区の皆様や先生方のご指導を得ながら、上地小学校と上地学区の進歩発展のため、微力を尽くしていきたいと決意を新たにしています。また、後輩のみなさんのご協力もお願いしたいと思います。

上地小学校同窓会長 貫 宏光



上地小学校第1回運動会

上地小学校開校時の思い出② — 永坂同窓会副会長の寄稿 —

去る十月二十一日に上地小学校同窓会役員会が校長室で行われました。井口清次同窓会担当実行委員も松山先生と共に出席頂きました。

貫同窓会長、永坂・後藤副会長、西村書記、林会計さんらの役員五名が全員出席で協議が進みました。来年度発行予定の同窓会名簿の内容や発行部数、代金などについて審議されました。慎重な話し合いが重ねられ一冊二百円、二千部の発行計画が決定されました。続いて、同窓会会則の再確認もされ、来秋の総会までの主なスケジュールが決められました。

「もう、開校十年が近いんですね。」

「私たちの頃は体育館もなかったし……。」

夕やみに囲まれた校庭に目をやりながら、青年たちの上地小学校回顧談にも発展していきます。

「貫会長の開校の思い出寄稿が、当時のことを懐かしく思い出させてくれました。」

「永坂君は、開校二年目の卒業生ですね。ぜひ、貫君に続いて回顧文を書いてくれませんか。」

こんな会話に発展し、次にご紹介する寄稿を頂くことになりました。

親友に恵まれた学校生活記

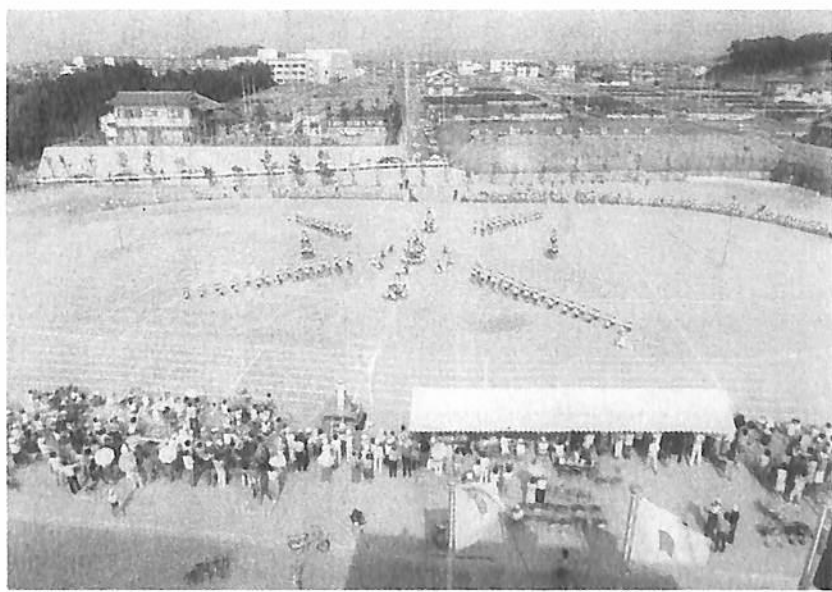
早いもので、私が上地小学校を卒業してもう八年になるうとしています。今でも、初めて上地小学校に登校した日のことを鮮明に憶えています。

新しい校舎で勉強ができるのだという期待感と他の学校から来る子たちと仲良くできるだろうかという不安感が入り交じって複雑な気持ちでした。

さまざまな思い出がありますが、私にとっての一番の思い出は、たくさんの方たちができたことです。岡崎小学校や緑丘小学校から来た未知の子たちと、この上地小学校で出会うことは不安もありました。

しかし、こうした中で、勉強や運動を通して数え切れないほどの友だちができました。親友と呼べる人も何人もでき、今でも遊びに行ったり話をしたりしています。

上地小学校開校がなかったら、彼らとの出会いはありませんでした。今ある親友は、上地小学校開校のたまものと感謝しています。



開校2年目秋の大運動会（学校周辺に空き地が目立つ）

他にも、プールや体育館がなく、淋しい気持ちでした。しかし、それがかえって、他の学校の生徒では体験できなかったことが味わえたのですから、これも、忘れられない思い出につながっています。

このたび、上地小学校同窓会の発足に当たり役員に選ばれましたが、母校のますますの発展のために、いささかでもお役にたてればと精一杯努力していきたいと思っています。よろしくお願い致します。



第2回卒業生が校訓塔前で記念撮影

上地小学校同窓会副会長 永坂 健一

上地小学校開校時の思い出③

—西村同窓会云書記の寄稿—

去る十月二十七日、上地学区・学校創立十周年記念事業推進バザーの折でした。小学校同窓会役員を代表して西村八千代書記さんと林房代会計さんが、お手伝いとして参加して下さいました。

既報のように、当日はあいにくの雨にたたられてしまいましたがお二人は息の合った仕事ぶりを発揮。

「はい、いらっしゃい。こちらはソニー幸田提供の福袋です。」

「とってもお値打ちなタオルセットも入っています。」

と、会場となった家庭科室入口で威勢の良い呼び込みを連呼され、用意された五十袋を瞬く間に完売してしまいました。

「嬉しいですね。卒業生がバザーの売り子さんをかけて出て下さるなんて」

「ええ、これで、本校の十周年事業も本物です。在校生の立派なお手本です。」

成瀬司総代会長さんと嶋田校長の会話ははずんでいます。

今号には、この日、大活躍された西村八千代同窓会書記さんが、九年前の上地小学校当時を思い出しながら原稿を寄せて下さいました。早速、紹介に移ります。

松原 暁三

全校児童で運動場の石拾い

九年前に上地小学校が開校した時、私は六年生でした。

当時はプールも体育館も、ジャージも校歌も何もなく、まさにゼロからのスタートでした。

運動場も小さな石がゴロゴロしていて、とても素足でかけっこできる状態ではなかったので、朝礼時に全校児童で石拾いをした事を覚えています。

水泳の授業では、教室で水着に着替え、南公園のプールまで歩いたものです。調理実習では、コンロなど何もなかったので、火を使わない献立をみんなで工夫しながら理科室で行ないました。

こうしたことを今振り返ると、なかなか大変だったなあと思います。けれど、当時は、大変だなあなんて少しも思いませんでした。

何をやるにも、何もないところからのスタートなので、むしろ「よし、がんばろう」と、みんな張り切っていたように思います。



石拾いをよくした運動場でのフォークダンス

できたてのホヤホヤの体育館で行なった学芸会や卒業式もとても印象に残っています。

毎日が充実していて、あつという間の一年間でした。

あれから九年が過ぎ、すっかり立派になった上地小学校の前を通るたびに、

「私はこの第一回卒業生なんだよ。」と、みんなに自慢している私です。

第一回卒業生

西村八千代



昭和58年度（開校当時）運動場での全校人文字

上地小学校開校時の思い出④

—同窓会会会計林さんの寄稿—

開校間もない学校づくりの思い出

私が上地小学校に入学したのは、五年生の時でした。当時は、本当に何もかもが新しく校舎に入るのも戸惑う程でした。

「これから何が始まるんだろう」

と、心がうきうきしていたことを覚えています。

まさに、ゼロからのスタートでした。

六年生を中心にして、先生方と一緒に上地小学校をつくっていきんだと、運動場の石拾いや学校に緑を増やすために苗木をたくさん植えたりと一生懸命でした。充実した毎日でした。

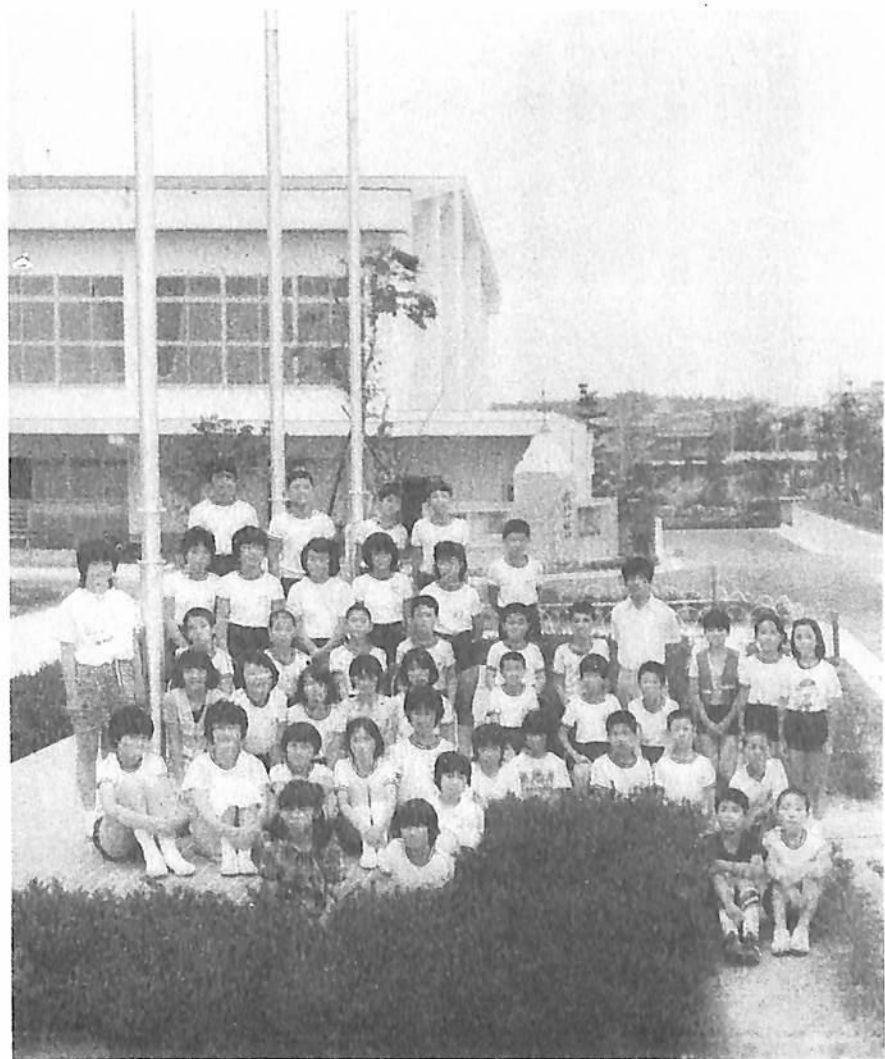
何をやるにも、前例というものがなかったため、学校の行事も自分たちでつくっていきました。サンクガーデンでの学年集会・訪問給食・世界一周マラソンなど今思うと、いろいろなことをやってきたんだなあと、頭の中をめぐってきます。でも、つらくていやだななんてことは一度もありませんでした。それは、きっと、何ごとにも皆が一つになって取り組んでいたからではないでしょうか。——う意味でも、私たちは本当にラッキーだったと思います。

す。
新しい学校で勉強や運動、そして遊ぶことができたのです。

卒業して早くも九年という歳月が流れてしまいました。が、今でも上地小学校を見るたびに、この学校に通うことができ、本当によかったと心から思うことができます。

同窓会会計（第
二回卒業生）

林 房代



国旗掲揚塔の周りで第2回卒業生（なかよし池はありません）

六、上地小学校の沿革をたどる①

この「ふるさと上地九年の歩みシリーズ」は昨年度の一月から始められました。この間、開校記念式典の模様やPTA・教師・卒業生の思い出などで歩みを記してきました。以下、昭和五十九年度からの上地小学校の主な沿革をたどってみたいと思います。

松原 暁三

昭和五十九年度（野田守司登校長・土岐久夫教頭）

職員数	二六名	児童数	六四一名
学区人口	四九一〇名		

四月 九日 屋内運動場・プール完工式

六月 八日 学校駐車場工事開始

七月十一日 屋内運動場南に芝張り

九月十五日 西三河女子バレーボール大会で優勝

一月十三日 鈴木正弘先生を講師に両親学級を開催

昭和六十年年度反(野田守司登校長・土岐久夫教頭)

職員数	二六名	児童数	六九八名
学区人口	五三〇六名		

- 四月二日 スポーツ少年団結成式
- 九月三日 道徳教育研究中間発表会
- 十二月四日 PTA日用品バザーの開催
- 三月 八日 交通指導員への感謝の会
- 三月一七日 児童玄関に陶器校章設置

昭和六十年一年年度反(野田守司登校長・土岐久夫教頭)

職員数	二八名	児童数	七六五名
-----	-----	-----	------

学区人口	五六〇一名
------	-------

- 四月二五日 月刊誌「上地の風」創刊
- 六月一三日 道徳教育研究発表会
- 「心豊かに力いっぱいやる子の育成」
- 九月二七日 運動場夜間照明点灯式開催
- 一月二五日 両親学級で映画「やがて春」の鑑賞会
- 三月一九日 学校記録誌「上地の風」創刊号の発刊

昭和六十年一年年度反(嶋田稔校長・土岐久夫教頭)

職員数	三〇名	児童数	八一八名
学区人口	六二〇六名		

- 四月二五日 月刊誌「上地の風」の継続発刊
- 四月十一日 上地学区こどもの家完工式
- 五月 一日 岡崎葵博覧を全校で見学



昭和62年度、南門前に集う子ら



昭和61年度の秋季大運動会

- 八月 二日 バレーボール女子東海大会で優勝
- 一月 九日 愛知県警プラスチックバンド鑑賞交通安全の集い開催
- 三月 五日 開校五周年記念「とべ上地っ子」像除幕式・校歌制定記念式典
- 三月二〇日 「上地の風」(ふるさと上地)二号の発刊

昭和六十二年年度(鳴田稔校長・柴田誠教頭)

職員数	三三名	児童数	八九九名
学区人口	七一五三名		

- 四月二五日 月刊誌「上地の風」の継続発刊
- 五月二二日 南門西に供養塚設置
- 六月二五日 大谷公園完成を祝う会
- 七月 六日 インドネシア青年公務員一行来校歓迎会
- 八月二三日 バレーボール女子全国大会初出場
- 一月 八日 「平成」に改元
- 二月二三日 柴田誠教頭逝去

上地小学校の沿革をたどる②

今号では、昭和五十八年以来九年間の上地学区の歩みをたどってみたいと思います。平成四年夏の出版予定で編集を進めている「上地学区創立十周年記念誌」作成資料から紹介します。収集作業には、柴田賢治総代を責任者に本校の長坂校務主任ら十名の方々が精力的に取り組んでおられます。

松原 暁三

昭和五十八年度

世帯数	二二〇戸	人口	四三六九人
-----	------	----	-------

- 一月一四日 愛知県勤労福祉会館開設
- 四月一七日 学区子供会発足(山本輝雄氏会長)
- 五月 八日 学区婦人会発足(小林郁子氏会長)
- 五月一六日 学区社教委員会発足(鈴木勲委員長)
- 五月一六日 学区総代会発足(柴田勝会長)

- 七月一日 第一回学区民体育祭の開催
- 七月二日 子供会球技大会の開催
- 九月一日 学区防災防犯協会連合会発足
- 九月二日 第一回敬老会の開催
- 三月二日 幹線道路の完成（二四八号線・衣浦線）
- 緑道の植栽工事完成

昭和五十九年度

世帯数一三五八戸 人口四九一〇人

- 五月二七日 第二回学区民体育祭の開催
- 八月 四日 学区民ソフトボール大会の開催
- 九月二五日 第二回敬老会の開催

昭和六十年年度

世帯数一四九〇戸 人口五三〇六人

- 四月 一日 学区市民ホーム開設
- 四月 三日 交通安全協会岡崎支部上地分会発足
- 六月 九日 第三回学区民体育祭の開催
- 六月一〇日 名古屋銀行上地支店開店
- 九月一五日 第三回敬老会の開催
- 九月三〇日 大谷橋開通式
- 十一月二五日 上地郵便局開設

昭和六十一年年度

世帯数一五八六戸 人口五六〇一人

- 四月 一日 岡崎市立竜南中学校開設
- 七月一七日 スーパー「ドミール」開店



市民ホーム完成祝賀会



愛知県労働福祉会館

- 九月一五日 第四回敬老会の開催
- 九月二七日 上地小学校夜間照明点灯式の開催
- 十月 五日 第四回学区民体育祭の開催

昭和六十一年度

世帯数一七二二戸 人口六二〇六人

- 四月一一日 学区子供の家完工式
- 五月二四日 第五回学区民体育祭の開催
- 九月一五日 第五回敬老会の開催
- 一月 九日 学区交通安全の集い

昭和六十三年度

世帯数一九七四戸 人口七一五三人



上地学区民体育祭

- 五月二九日 第六回学区民体育祭の開催
- 六月二五日 大谷公園完成を祝う会
- 九月一五日 第六回敬老会の開催

平成二元年度

世帯数二二二四戸 人口七四二二人

- 一月 七日 第一回上地学区新年交礼会
- 五月二三日 上地地区新町名に変更
- 九月一五日 第七回敬老会の開催
- 十月 一日 第七回学区民体育祭の開催
- 十一月三〇日 上地地区区画整理事業工完了
- 十二月二四日 総代会による子供の家餅つき会開始

平成二一年度



総代会による子供の家餅つきの会

世帯数二二七八戸 人口八〇四〇人

- 一月 五日 第二回上地学区新年交礼会
- 五月二七日 第八回学区民体育祭の開催
- 八月二五日 第一回上地学区親子夏祭りの開催
- 九月一五日 第八回敬老会の開催
- 九月二〇日 十周年記念事業実行委員会発足

平成二二年度

(委員長 成瀬司氏)

世帯数二四二四戸 人口八一八四人

- 一月 五日 第三回上地学区新年交礼会
- 五月二九日 第九回学区民体育祭の開催
- 八月二四日 第二回上地学区親子夏祭りの開催
- 九月一五日 第九回敬老会の開催
- 十月 一日 第九回学区民体育祭の開催
- 十月二七日 十周年記念事業推進バザー開催



盆踊りも取り入れた学区夏祭り

あとがき

『ふるさと上地その5』の発刊をむかえることができました。学区、学校の接点としての役割を持つ学校日より「上地」(月刊)を項目ごとにまとめました。

取材にあたっては、学区の多くの方々から親切に教えていただきました。厚く御礼申し上げます。

私たちは、この冊子を作るにあたり、次のことを念頭に置いて進めてまいりました。

- 一、手作りであること
 - 二、足で調べたり書いたりしたものであること
 - 三、できるかぎり子どもにも参加してもらうこと
- 力不足のため、或は調査不足のため、記載事項に誤りもあるかと思えます。その節は遠慮なく指摘して頂き、ご指導をお願いしたいと思います。
- 学区・学校創立十周年を来年に控え、郷土「上地」の良さを認識し、住みよい上地、発展する上地を作り上げる一助となれば幸いです。

研 究 同 人

嶋田 稔	松原 暁三	菅沼 剛	長坂 信一	竹内 孝之
松山耕太郎	守山 妙子	鈴木 純子	高山 治朗	鈴木 尚子
坂爪ひとみ	太田 恭子	土屋 恵子	岡本きみゑ	高橋由美子
満本 妙子	松本 博子	酒井 幾子	奥村 武文	高田加代子
名倉 嘉章	森下 初子	柴田 美香	鶴田 秀幸	杉本 峰
田中 鉄也	松永 千鶴	竹平 真仁	冨田 尚子	松坂 禎文
小田 英宣	深津 伸夫	西田 貴子	神谷二佐絵	今枝 弘子
石井美智子	加藤 勝彦	岩瀬 幹夫	織田 倫子	金澤 君代

ふるさと上地 5

発行日 平成4年3月19日

発行者 岡崎市立上地小学校

校長 嶋田 稔

岡崎市上地3丁目31番地

電話 (0564) 53-0501

印刷所 大日印刷株式会社

